

感染症研究革新イニシアティブ(J-PRIDE)

Japanese Initiative for Progress of Research on Infectious Disease for global Epidemic

概要

- 西アフリカで感染が拡大したエボラ出血熱や、中南米を中心に小頭症児との関連で問題となっているジカウイルス感染症、近年世界的に脅威を拡大している薬剤耐性等は、国際社会に大きな衝撃と不安を与え、その対策が迫られている。
- 國際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議で決定された「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画」(平成28年2月)「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」(4月)、「長崎大学の高度安全実験施設(BSL4施設)整備に係る国との関与について」(11月)において、BSL4施設を中核とする感染症研究拠点の形成による感染症研究機能の強化や感染症人材育成の必要性等を指摘。
- これら指摘を踏まえ、感染症の革新的な医薬品の創出を図るため、病原性の高い病原体等に関する創薬シーズの標的探索研究、BSL4施設を中核とした感染症研究拠点に対する研究支援及びそれを支える研究者の育成等を行う。

多様な領域の研究者で構成されるネットワークの構築

医学、薬学、獣医学、農学等の領域の研究者に加え、構造生物学やイメージング、バイオインフォマティックスなど他領域の研究者が分野横断的に連携して研究を推進することにより、新たなブレークスルーを生み出す。

研究領域

エボラ出血熱等の病原性の高い感染症に関する研究

エボラ出血熱等の病原性の高い感染症について、新たな創薬へとつながるウイルス蛋白の構造と機能、ウイルスゲノムの構造と機能、ウイルス生活環、感染増殖系等の研究を推進。

このため、

- ・世界最高水準の安全性を備えたBSL4施設を中核とした感染症研究拠点における、我が国の感染症基礎研究の優位性を発揮した研究を支援。
- ・合わせて、病原性の高い病原体に関する研究の裾野を広げるための研究を推進。



エボラウイルス
(国立感染症研究所提供)

連携

病原体-宿主因子の相互作用及び感染制御機構等の研究

細胞内での増殖などの感染成立過程に着目した研究や宿主感染制御の解明等に関する研究を推進。

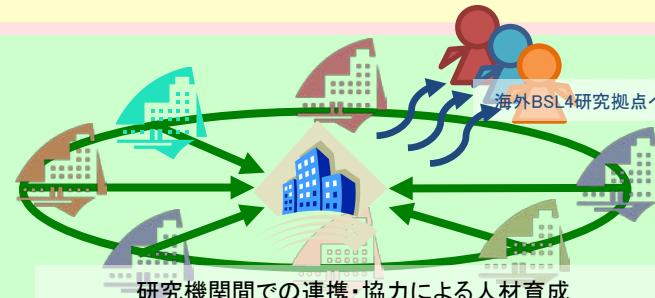
胎児の先天性異常や子どもに重篤な症状をもたらす感染症等の病態解明に関する研究

宿主の多様な感染防御機構を回避して成立する感染病態の分子機構の解明等に関する研究を推進。

人材育成

病原性の高い病原体を扱う研究者等の人材育成

- ・海外のBSL4施設を利用し、BSL4施設の利用に必要な知識・経験を有する研究人材の育成を図る。
- ・国内の研究機関や海外のBSL4研究拠点連携・協力し、人材育成を進める。



新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

感染症研究国際展開戦略プログラム(J-GRID)

AMED他事業(創薬支援ネットワーク等)

国立感染症研究所

感染症関連学会

国際研究機関

製薬企業

- ・我が国の感染症基礎研究水準の全体的な向上
- ・日本発の画期的な創薬の開発
- ・感染症危機管理体制の強化
- ・国際社会への持続的貢献